

# 読賣新聞

30年という節目にちなんだ  
話題が今年は目につく。

キャンデイスが30年前に  
解散コンサートを開いたのと  
同じ日に、かつてのファンが  
全国から集結した。成田空港  
は未買収地を残したまま開港  
30周年を迎え、デビュー30年  
のサザンオールスターズは今  
年いっぱい無期限の活動休  
止に入る。

全国版のニュースではない  
が、先月末には、仙台市内の  
古社、鹿島神社の鳥居が30年  
ぶりに再建されたという記事  
が本紙宮城県版に載った。

氏子代表の総代責任役員を  
務める酒店経営、鈴木泰夫さ  
ん(61)は、鳥居を倒した宮城  
県沖地震の衝撃を忘れない。

## 語り

社会部長  
社次  
\* 棚瀬 篤

1978年6月12日午後5時  
14分。バイクの荷台にビール  
ケースを載せて得意先に運ぶ  
途中だった。倒れそうになる  
バイクを懸命に支えたことを  
覚えている。

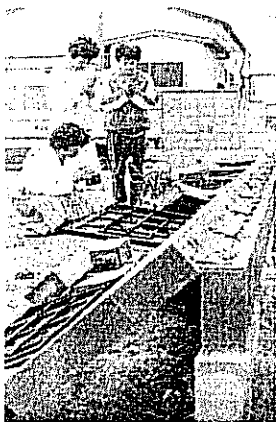
地震には何度も遭っていた  
が、地域のシンボルの鳥居が  
倒壊するという事態は「考え  
たことがなかった」と鈴木さ  
んは言う。だから日ごろ、鳥  
居の周りで子供たちが遊んで  
いても気に留めていなかった

### 「もしも」30年の教訓

た。「もしもあの時、子供た  
ちが近くにいたら……。そう  
思うとぞっとします」

同じ時、他の地区では、そ  
の「もしも」が現実になって  
いた。各地でブロック塀や門  
柱が倒壊。28人の犠牲者のう  
ち18人はこれらの下敷きにな  
って死んだ。関東大震災の苦  
い記憶から火の怖さばかりに  
目が向いていた日本人は、強  
度の不十分な構造物は倒れる  
という当たり前の教訓を、こ

宮城県沖地震では多  
くの人がブロック塀  
の下敷きになった



り返されている。  
塀だけではない。  
宮城県沖地震は81年  
の耐震基準改定につ  
ながったが、それ以  
前にできた建物は長  
く放置されてきた。

の地震で得たはずだった。  
「宮城県沖地震の教訓は生  
かされなかった。そう書いた  
ことがある。千葉支局に勤務  
していた87年12月。千葉県東  
方沖地震で、女性2人がブロ  
ック塀などの下敷きになって  
死亡した時だ。倒れた塀には、  
鉄筋が入っていないなどの欠  
陥があるものが多かった。昨  
年の能登半島地震や新潟県中  
越沖地震でも塀の倒壊があち  
こちで起き、同様の指摘が繰

95年の阪神大震災で、古い家  
屋の住人に多数の死者が出た  
のはご承知の通りだ。そして  
今も耐震性の不十分な住宅が  
全国に500万戸以上ある。  
中国・四川省の惨状はひとこ  
とではない。

30年と言えは、政府が4月  
に公表した2008年版地震  
動予測地図に今後30年以内の  
地震発生確率が出ている。首  
都直下地震は70%で東海地震  
は87%(参考値)。対策のペ  
ースがこれまでの30年と同じ  
だったら話にならない。  
節目のニュースに、しばし  
歩みを止め、自らの30年を重  
ねてみるのもいいだろう。だ  
が、地震対策に話を限れば立  
ち止まる暇はない。